

中央教育審議会総会（第128回）における「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について（諮問）」に関する主な意見

※事務局において作成

【教師に求められる資質能力、教職員集団の在り方】

- 教師には、教科指導はもとより、生徒指導、生徒支援、進路指導、教育相談、学級経営、教員組織の分掌、マネジメント能力も求められている。今後、全ての教師に求められる基本的な資質能力と、専門に特化したような資質能力を一定程度分けて考えることも必要になっている。
- 教師の理想像と現実像には少しギャップがあるのではないか。ICTも活用し、子供一人ひとりの個性にも情情的に中に入っていけるような教師が理想的であり、さらに、知識を積み上げて考える力をいかに醸成するか等、教師には様々な役割が期待されている。現実的にどのレベルを求めるのかということを考える必要がある。
- 教育現場や学校の果たす役割というのは、子供の学力ということもさることながら、学校という場でいかに子供たちがいかに幸せに生きていくことができるのか、また、現在の幸せだけではなくて、将来のwell-beingにつながっていくのかところが、大きな意識として共有されてきているのではないか。その際、学校を作っている教職員のwell-beingというのも非常に重要な要素として、子供に伝播していくものと考えたほうが良い。
- 学校教育の課題は、教育制度や施設整備、教育組織、教育課程、教育手法といろいろあるが、最も大切なのは質の高い教師の確保ということと、チームで動く教職員組織にある。
- 教師自身のキャリアパスについて、今まではいわゆる優れた教師がそのまま学校の管理職になっていくのが一般的だったが、例えば優れた教科指導力とか、ICT活用指導力等を存分に発揮できるような専門職的な教師のキャリアパスの位置づけが明確になることも今後は必要ではないか。
- 経験の浅い教師に対しては、管理職含め先輩教師がOJTの視点から仕事を一緒にすることによって見守っていくことにより、職としてのスキルアップが行われている。校長をはじめとした管理職がより一層、人材育成という観点でのマネジメントを図れるような在り方についても検討していくことが必要。
- OECDが提唱している「学びの羅針盤2030」では、生徒のエージェンシーという言葉

があり、生徒の主体性を育むことが非常に重要であるし、また、自立的学習者としての生徒像がしっかりと打ち出されている。教師が全ての子供たちの指導を管理していくという概念から、子供たちが自立的に学ぶ力を育てていくという大きな転換であるが、これは教師一人の力でできることではなく、学校全体でやっていかなければならないこと。

#### 【教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化】

- 新人と20年のベテランの社員が同じことを求められることは企業ではあり得ないが、教師という仕事においてはそれが求められるという、大変チャレンジングなスタートを切らなければならない職務である。つまり、新人教師が困らない状態にするための教員養成がどうあるべきかということをしかりと考えていく必要がある。
- 小学校、中学校、高校で教えている教師が、型どおりの授業をやっていくのみではなく、個性を持って、大学でやった学問をうまく消化して教えるようなことが、現場でなされているのか。毎日多忙であるが、やはり現場の教師が学問の匂いを少しでもさせるような小学校、中学校、高校になると良い。
- 今、学校教育で求められているものというのは、これまでの学校教育の中では教えられてこなかったものというのが非常に多くなっている。その辺についてもしっかりと養成段階や研修において指導が受けられることも大事。
- 今後、教員養成を変える必要があるのであれば、各大学での教員養成の工夫や多様性を認め、そのイノベーションを支援していこうとする方向性が必要である。これまでの教員養成の質保証は学ぶ内容の追加と共通化、厳格化の歴史。特に近年では、コアカリキュラムが足かせとなり、各大学では独自の工夫が難しい状況になっている。各大学の現行のリソースでは、コアカリキュラムに対応することで精いっぱいという状況がある。学生にとっても同様に、多様な経験を積んでほしい教員養成課程の学生は、留学等の多様な活動を経験することが、かなりカリキュラムがきついということがあって、難しい状況にある。質保証にも目配りをしつつ、こういう状況を見直していくことが必要である。
- 海外では何年か学校の経験を積むと大学院に入ってスクールリーダーの資格を取得し、30代でも校長になれるという話を聞く。そういった環境についても検討しても良いのではないかと。企業のリーダーシップ養成の領域は、スクールリーダーの教育においては親和性が高い。そういった幅広い知見を使いながら、新しい時代のスクールリ

一ダの養成に取り組むことも有効ではないか。

#### 【教師を支える環境整備】

- 教職員になりたい人がなぜ少なくなっているのかを分析する必要がある。なり手がいない状況でいくら理想論を述べても先へ進まないの、教職員を取り巻く環境についても議論を進める必要がある。
- 教師については、働き方改革の実現をしながら、教職が魅力ある仕事であることを再認識してもらうことで、子供たちに憧れをもってもらえるような存在になる。
- 教師という仕事の社会的役割が重要であるということは、誰しも認識している一方で、なかなか教師のなり手がいないということは大きな課題。教師が創造的で魅力ある仕事となるよう、働き方改革も含め議論を進めることが必要。
- 教師の待遇についても大きな柱として検討する必要がある。それは給与もさることながら、例えば大学院や教職大学院などで学校の先生方が学びを継続する、それを支援していくような仕組みを充実させるということも含む。教師が自らにインプットできるような機会が今よりも拡大する必要がある。
- 教師の専門性や働き方改革等、非常に重要なことがいくつもある。学校で子供たちと一緒にいろんなことをやって、子供たちが成長していく姿を見ていることが面白くて仕方がないといったことに力と時間を注げるような学校の在り方というのを、どうしたら実現できるのかということ、考えていきたい。
- 教師は非常に繁忙で深刻な状況。これは教育の質や学校の安全に直結する。働き方改革はやはり喫緊の課題である。

#### 【その他】

- 「令和の日本型学校教育」は先が長いもの。目先だけではなく先のことを考え、起り得るものを最初から押さえる必要がある。
- 10期も含め、過去の答申に対してどういう成果が上がったのか、評価することが重要。
- 課題はたくさんあるが、見果てぬ夢ではなく、具体的な目標を見据え、事柄が実現していくように議論していきたい。